

## 中観山昭和寺と世界平和同願会

信州霧ヶ峰に存在する昭和寺は、正式には宗教法人中観山同願院昭和寺と称し、故山崎良順師(略歴最終頁)が自らの戦争体験から、第二次世界大戦で



亡くなった方々の慰霊と世界平和を祈願する活動のために建立されました。良順師は、昭和16年9月、山砲の中隊長として中国に出征、揚子江辺の各地を転戦しつつ終戦を迎えました。2度の負傷を負いましたが、その隊は現地の人々と友好的な交流もあり「サンキーブーテーチャン」と呼

ばれ、帰国のときは他隊とは違って、みんなまるまる太っていたそうです。

昭和35年、戦友会の席上、良順師がこの会を生還者の親睦のみでなく、戦没者を弔い平和を祈る会として、日中両国に観音像を創り、一体を中国に贈ることを提案、賛同を得て「中観会」(中国に観音様を贈る会)が設立されました。趣旨に賛同した茅野市の矢崎虎夫氏が製作に当たり、翌年浅草の浅草寺で2体の観音像の盛大な開眼供養が行われました。当時の中国に観音像を贈ることは大変難しいことでしたが、幸運にも2年後北京の広済寺に安置されることになりました。



その後、太平洋の各地の激戦地にも祀って欲しいとの要望から、青蓮院門跡門主東伏見滋治台下に会長をお願いして、有縁の地に観音像をお祀りし世界平和を祈願する昭和同願会(世界平和同願会の前身)が発足しました。グアム島の戦没者慰霊塔をはじめ、サイゴン、マンダレー、シンガポール、バーシー海峡などの慰霊塔に贈られています。

昭和45年の大阪万博には、平和観音像を出展の許可を得て、広く浄財を集め、3メートルもの像として古河パビリオンの前の法輪閣の庭に建てられました。それは万博終了後、ラオスパビリオンを払い下げて頂くことになりました。

そして諏訪市の多くの方々のご協力で、ラオス館を移築して、霧ヶ峰にその像を本尊とする昭和寺を建立する運びとなりました。しかし宗教法人に市が土地を貸すのは違憲ということで、国際学生ゼミナールと社会教育を行うことを事業目的として、財団法人の世界平和同願会が誕生しました。

そして、良順師の熱意が多くの方々の賛同、協力を得ることになり、中観山同願院昭和寺と、国際青少年研修会館が完成したのです。



東南アジア国際ゼミナールは、留学生は3泊4日参加費無料、交通費5千円支給ということで、昭和48年から16回開かれました。講師は中島嶺雄氏・小川平四郎氏・松原泰道師など、アジア問題や宗教界などの有力な識

者をお招きし、地元の植物や地理の先生、体育の先生も参加され、例年30名程の学生が充実した研修を受けてきました。

平成4年、良順師の無二の協力者だった妻志津子が亡くなると、裏方の作業をする人がなく、ゼミナールの開催は不可能になりました。平成8年良順師の遷化とともに、この事業は途絶えたままになっています。



平成8年良順師の遷化の後、孤立無援の法嗣入来院大圓を支援するため、大圓の父入来院重朝がやむなく理事長職を継ぎました。鹿児島在住のため、良順師の協力者が次々と他界されている中、師の悲願である世界平和祈願・全戦没者の慰霊祭の毎年開催と「同願」紙の発行し、その意義を伝え、協力者を得る努力をしています。

最終ゼミが行われてから15年。建物の老朽化が進み、施設も傷んでいます。風光明媚な霧ヶ峰に先師の努力で実現したこの平和祈願の霊場を、維持し発展させて行くこの運動に是非皆様のご助力をお願いしたいと思います。



萬靈碑開眼法要・山崎良順 昭和寺葬 平成8年9月8日 於昭和寺

中央大導師前の天台座主渡辺恵進師

## 山崎良順略歴

- 明治39年(1906) 福井県鯖江市川去町に生まれる
- 大正14年(1925) 福井県立福井中学卒業
- 昭和3年(1928) 京都市大谷大学予科卒業
- 昭和7年(1932) 東京大正大学学部卒業
- 昭和8年(1933) 大正大学梵文学研究室助手
- 昭和14年(1939) 大蔵出版(株)編集部員
- 昭和16年(1941) 中支派遣軍山砲兵将校
- 昭和21年(1946) 諏訪市にて靴履物卸山崎屋商店創業
- 昭和35年(1960) 日中親善のために2体の観音像を創る会設立
- 昭和40年(1965) アジアの激戦地に観音像を贈り祀る同願会設立
- 昭和45年(1970) 大阪万博に3メートルの金色の観音像を安置
- 昭和46年(1971) 大阪万博ラオス館を霧ヶ峰に移築。昭和寺とする。
- 昭和47年(1972) (財)世界平和同願会理事長
- 昭和48年(1973) 万博記念協会の援助により国際青少年研修会館建設。アジア各国の学生と日本学生交流のためゼミナール開講。以後計16回行う。
- 平成8年(1996)2月13日 遷化
- 平成8年(1996)9月8日 昭和寺葬